

西表島のマングローブ No.1

オヒルギ *Bruguiera gymnorhiza*



根(膝根と板根)

葉



花

実

特 徴

根：「くの字」に曲がった根(膝根と板根)を地上に出します。
 幹：表面にイボのような出っ張りがたくさんあります。
 葉：楕円形をした葉のふちはなめらかですが、葉の先はとがっています。
 花：がくは赤く、赤い花が咲いているように見えるので「アカバナヒルギ」とも呼ばれます。
 実：エンピツのような形をした実は、木に下がったまま発芽するため、胎生種子(たいせいしゅし)と呼ばれます。

ヤエヤマヒルギ *Rhizophora stylosa*



支柱根

葉



花

実

特 徴

根：幹からタコ足のような根(支柱根)をたくさん出します。
 幹：表面は灰色や黒色をしています。ところどころに割れ目が入っています。
 葉：楕円形で、葉の先は針のようになっています。
 花：花びらは白く、がくは黄色です。
 実：エンピツのような形をした実は、木に下がったまま発芽するため、胎生種子(たいせいしゅし)と呼ばれます。

メヒルギ *Kandelia obovata*



板根

葉



花

実

特 徴

根：幹の付け根が板のように広がっています。(板根)
 幹：表面にイボ状のものが見られます。
 葉：幅の広い楕円形で、先は丸くなっています。
 花：花びらは白く5枚です。
 実：エンピツのような形をした実は、木に下がったまま発芽するため、胎生種子(たいせいしゅし)と呼ばれます。

マヤブシキ *Sonneratia alba*



通気根

葉とつぼみ



花

実

特 徴

根：まっすぐ上を向いた根を地上に出します。(通気根)
 幹：表面に長い割れ目がみられます。
 葉：卵形をした葉で、葉の先は丸くなっています。また、両面で光合成ができる仕組み(等面葉)になっています。
 花：「おしべ」は白く、その中の「めしべ」は緑色をしています。花びらはありません。
 実：1つの実の中に150 - 200個の小さな種が入っています。

西表島のマングローブ No.2

ヒルギダマシ *Avicennia marina*



通気根



葉



花



実

特徴

根：まっすぐ上を向いた細い根を地上に出します。(通気根)

幹：表面がなめらかで、灰色をしています。

葉：卵を逆さまにしたような形から先がとがった細長い形のものまでいろいろあります。また、根から吸い上げた塩を葉から排出するための塩類腺が見られます。

花：花びらは黄色で4枚あります。

実：ソラマメのような形をした種をつけます。また、種は少しだけ成長してから落下するため半胎生種子(はんたいせいしゅし)と呼ばれます。

ヒルギモドキ *Lumnitzera racemosa*



幹



葉



花



実

特徴

根：他のマングローブと違い地上に根を出しません。

幹：褐色でざらついています。

葉：卵形をした葉は小さく、互生で、光沢があります。また、両面で光合成ができる仕組み(等面葉)になっています。

花：花びらは白く5枚あります。

実：緑色をした実は、長楕円形をしています。

ニッパヤシ *Nypa fruticans*



葉



花



実

特徴

根：他のマングローブと違い地上に根を出しません。

幹：幹はありません。

葉：細長い葉は、地面から直接出て、先が尖っています。

花：雄花と雌花に分かれ、雄花は細長く雌花は丸くなっています。

実：丸みがあり、堅い殻で覆われています。また、種は少しだけ成長してから落下するため半胎生種子(はんたいせいしゅし)と呼ばれます。

みなさんはマングローブを知っていますか？

「マングローブ」という名前がついた植物があるわけではありません。熱帯や亜熱帯地域の河口など、満潮になると海水が満ちてくるところ(潮間帯)に生え塩分のある水を摂取して利用することができる植物をまとめてマングローブと呼びます。

日本には鹿児島県以南に生育し、オヒルギ、ヤエヤマヒルギ、メヒルギ、マヤブシキ、ヒルギダマシ、ヒルギモドキ、ニッパヤシ等が自生しています。

希少なマングローブ

マヤブシキ、ヒルギダマシ、ヒルギモドキ、ニッパヤシは、環境省のレッドデータブックで絶滅及び準絶滅危惧種に指定されています。

特に、ニッパヤシについては、国内唯一西表島のみ自生し、世界の自生地北限で植物地理学上も重要であり、天然記念物や重要な植物群落保護林にも指定されています。